野 球 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 種 目　軟式野球競技とする。

2. 競 技 規 則　2017年度公認野球規則を適用する。

3. 出 場 資 格　関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームする。
茨城1、筑波技術大学（茨城）、群馬県1、埼玉県1、千葉県1、東京都3、
神奈川1、栃木1、山梨 1
（全国大会開催・地元開催チームは1チームを加えて参加することができる。）
12チーム以内になるものとする。但し、12チーム未満の場合は最低10チームでも可能とする。[※優勝・準優勝チームが全国大会に出場する]

4. チームの編成

(1) 1チームの編成は、監督・コーチを含む選手20名とする。なお、マネージャー・スコアラーも含む）但し、マネージャー・スコアラーの帽子を着用する（選手同様とする）

(2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手のみ、出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。

(3) 監督の背番号は、30番、主将の背番号は10番とする。

(4) 特別理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更及び背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して監督・主将会議の期日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込みは、一切認めらない。

(5) 県単位にチームを編成できない場合（8人以下の場合）は、他県のチームに（関東地区）に加入することができる。
※①申込み締め切り後の登録・変更については認められない。
※②全国大会出場に補強選手4名まで参加できる。

5. 試 合 方 法

(1) 全試合トーナメント方式による。

(2) 全試合は7回戦とする。

(3) 得点差によるコールドゲームを採用する。時間制限によるコールドゲームを採用しない

(4) 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差生じた場合とする。

(5) 得点差によるコールドゲームは、3回以降15点差生じた場合とする。

(6) 7回を終わって同点は場合
①決勝以外の時、ルールによる特別延長戦を実施する。
（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものする。）
②決勝の時は、下記事項にて実施する。
・得点差によるコールドゲームを採用しない。
・9回まで延長戦を行う。

・延長戦でも勝負しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。
（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。）

［特別ルール］

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は、順次前の打者（投手を含む）として、1死満塁の状況に1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。

（7）競技会において、雨天等の事情により大会日程等を縮小する必要が生じた場合は、大会役員・審判団・該当チーム監督等の協議のより運営実施するものとする。

（8）大会の使用球は、（公益財団）全日本軟式野球連盟公認Ａボールとし、ボールのメーカーについては、ナガセケンコーボールＡ号とする。

6. 用　具　等

（1）ユニフォーム＝袖に必ず都県名を縫いつけること。

（2）競技に使用する用具については、（公益財団）全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者は、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、プロテクター、ヘルメットおよびレガース、ファウルカップを着用しなければならない。

（3）打者・走者・次打者・ベースコーチともイヤーフラップのついたヘルメットを着帽しなければならない。（ただし、一般チームのベースコーチについては、イヤーフラップの規則はしないが、耳付きを着用することが望ましい。）

7. 打順表（オーダー表）提出について

（1）第1試合の場合は、試合開始予定時間の30分前に監督・主将が提出する。この場合原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。

（2）第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。

（3）その日の試合がWヘッダー（前の試合終了後30分前で試合開始）となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。

（4）打順表の用紙（5部複写）は、本部で配布するので、事前に受領する。

（5）打順表の選手については、読みにくい名前にはフリガナをつけること。

8. 抗議について

試合中に、抗議が出来る者は、監督または、主将・当該プレイヤーである。

9. 監督・主将会議

（1）監督・主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。

（2）組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。

（3）1都県2チーム参加の場合は、決勝までそのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない。

（4）監督・主将等会議において、監督・主将が共に欠席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

10. 表　彰

(1)表彰式は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。

(2)優勝チームに優勝旗・優勝カップ（持ち回り）賞状・メダルを、準優勝チームは、準優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを3位チームには、賞状・メダルを授与する。

(3)個人表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。首位打者賞は、ベスト4チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席（9打席以上）を設けて最高打率によるものとする。

11. 開会式、始球式について

開会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部指示に従うこと。

12. 雨天の場合の連絡等について

(1)雨天でも試合を行う場合がある。または、午前中は試合を見合わせて、午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。

(2)試合中、雷が発生した場合、状況を判断して試合を中断して、全員安全な場所に避難させ、気象台等の状況を掌握し、その後の処置を行う。

13. そ の 他

(1)試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手・スコアラー・マネージャーとする。

(2)試合開始予定時刻の30分前までのは会場に到着し、会場本部席に報告をすること。

なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻よりくゲームを行える場合も考えられるので、十分余裕を持って行動する。

(3)ベンチは、組合せ番号の若いチームを1塁側とする。

(4)ゲーム前の公式練習（シートノック・フイールディング）は5分間とする。但し、天気・時間の状況等により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用のこと。

(5)雨天時により試合を中止する場合、決勝戦は両チーム優勝とする。3位決定戦は抽選を行い3位決定する。

(6)大会の負傷・病気については、応急手当の他は、主催者側では行わない。

（選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。）

健康保険証、その他これし、準ずるものWP時参のこと。

※一般的にはJSBBマークが入っていれば金属、カーボンは使ってもいい。

木の場合はマークなくても使用可。